

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 海洋生命科学部、海洋工学部、海洋資源環境学部、海洋科学技術研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
海洋生命科学部、海洋工学部、海洋資源環境学部、海洋科学技術研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

**1. 海洋生命科学部、海洋工学部、海洋資源環境学部、
海洋科学技術研究科**

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 26 年度文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に採択され、岩手大学及び北里大学とコンソーシアムを形成し、研究情報収集やプロジェクト企画、競争的資金等の獲得、産学官連携による共同研究推進、URA 育成（「水産海洋イノベーションオフィサ」育成）の取組を実施しており、第 3 期中期目標期間中に宮城県気仙沼市、東京都墨田区東向島、及び岩手大学内の合計三か所に推進室を設置して取組を推進した。本事業は、平成 28 年度に行われた科学技術振興機構による中間評価において、その順調な進捗と、特にグローバルネットワークの構築、産地と消費地を結ぶ新たな事業展開及び産学官連携による実地研修を踏まえた内容等について「A」の総合評価を受けた。
- 平成 28 年度に国際共著論文の掲載状況及び論文投稿に向けた諸外国との共同研究の実態把握を目的としたアンケートを実施し、論文数の増加及び国際共著論文の投稿促進を目指して、平成 28 年度から令和元年度に次の支援策を実施した。
 - ・国際共著論文公表支援（実績 16 名）
 - ・国際共同研究活動等に係る渡航費・招聘費の支援（実績 14 名）
 - ・トップ 10%論文著者への支援（実績 32 名）（平成 30 年度～）
- 東京海洋大学は、令和元年度に文部科学省に採択された「海洋産業 AI プロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」の拠点として、「海洋 AI 開発評価センター」を設置した。同センターでは、最新の高性能計算設備とともに、海洋観測データやゲノムデータなど、海洋に関する各種ビッグデータを蓄積及び解析を行うための教育・研究システムを整備している。神鷹丸等の練習船、水圏科学フィールド教育研究センター及び先端ナビゲートシステム等の東京海洋大学のリソースを活用して、自律航行船開発や次世代スマート水産業の創設等、海洋・海事・水産の広範な分野にわたる教育・研究を行う。また、同センターには、産学官の連携を行う海洋 AI コンソーシアムの運営拠点としての役割が期待されている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、22 件、6 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。